

東京に平和祈念館（仮称）を



山田 朗

戦争の記憶をモノに よつてヒトが伝える 重要性

戦後70年近くが経過し、今や、
 実体験として戦争のことを語る
 人はきわめて少なくなっている。
 体験者が、非体験者に戦争につ
 て語ることで、戦争の記憶を継承
 する、という時代ではなくなりつ
 つある、といわれるようになって
 すでに久しい。

このような時間の経過、戦争の
 記憶の希薄化にもなつて、戦争
 を国家政策の一つの選択肢として
 考へる風潮が強まりつつある。過
 去の戦争や侵略・植民地支配とい
 ったことを直視するのではなく、被
 害者の存在と加害の実態に目をと

ぎそうとする歴史修正主義の傾向
 が拡大している。人間は、過去の
 歴史に学ぶという叡知を持つてい
 る反面、残念ながら過去の教訓を
 忘却してしまうという弱点も持っ
 ている。

人間の歴史は、実に多面的で、
 数多くの経験と教訓に富んでいま
 す。そこには面白い、誇り高いエ
 ピソードもあるだろうし、反面、
 できれば思い出したくもない忌ま
 わしい出来事もある。しかし、そ
 のどちらも私たちの過去の歴史で
 あり、忘れてはならないものであ
 るはずだ。とりわけ過去の人びと
 が自ら犠牲（被害者）になつたこ
 と、自覚の有無にかかわらず加害
 者になつてしまつたようなことは、
 意識的に伝えようとしなければ、
 放置しておけば消え去ってしまう
 恐れがある。

今日、核家族化の進展もあつて、
 家族や地域の歴史が、親から子へ、
 あるいは祖父母から孫へとはな
 なか伝わりにくい状況になつてい
 る。特に、家族の歴史をさかのぼ
 て、戦争の記憶が継承されること
 は困難になつてきている。しかし、そ
 うであつても、自分が生まれた地
 域の歴史から、そこに戦争の時代
 があつた、さまざまなる人びとの加
 害と被害の事実があつた、という

ことを継承することは、まだまだ
 可能である。現代の若者にとつて、
 戦争はもう実感できる存在ではな
 い。とはいえ、自分が関係する地
 域の歴史を通じて、自分が戦争と
 繋がつていふことを感得でき
 きた時、今まで戦争を実感できな
 かつた若者にとつても戦争はにわ
 かに身近な存在となつて現れてく
 る。こうしたことからモノ（博
 物館・祈念館・モニュメントなど）
 が、戦争の記憶を継承
 する決定的に重要な媒
 介物になつていふ。

そして、もうひとつ
 大切なことは、モノに
 よつて継承された歴史
 の記憶を、あらためて
 ヒトが語ることでヒト
 に伝えるという行為で
 ある。文字や画像や映
 像によつて提示された
 ことを、あらためてヒ
 トがヒトに言葉で直接
 に伝えることで、より
 強いインパクトをもつ
 からである。

（歴史教育者協議会代
 表理事、明治大学教授・
 平和教育登戸研究所資
 料館館長）

発行 「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会
 〒102-0084 東京都千代田区二番町12-1エデュカス東京
 東京総合教育センター気付 FAX03-5927-1487

戦争する国を許さず 「東京都平和祈念館(仮称)」建設をめざす7・12集会

7月12日(土)午後、労組・平和団体で組織された実行委員会主催による“戦争する国を許さず 「東京都平和祈念館(仮称)」建設をめざす7・12集会”が、豊島区民センターで開催されました。

この集会は、東京都がいったん「東京都平和祈念館(仮称)」の建設をすすめるながら、事実上「凍結」状態にしていること、同時に、都が「東京都平和祈念館(仮称)」建設するからといって、都民から展示資料の提供をよびかけ、都民から寄せられた5000点にものぼる展示資料をほとんど活用せず、目黒の庭園博物館の倉庫にしまいつけ、その保管状況も闇の中という状況など、都政の異常な状況を一日も早く打開して「東京都平和祈念館(仮称)」建設させようと運動を新たに強化していくために開催したものです。

この集会では第1部で、エッセイストの朴 慶南(パク・キョンナム)さんが「日本の朝鮮植民地支配を考える」、全国空襲被害者連絡協議会共同代表(弁護士)の中山武敏さんが「空襲被害と戦後補償」、重慶大爆撃事件訴訟弁護団長の田代博之さんが「重慶大爆撃から東京大空襲」、国民学校一年生の会代表世話人の橋本左内さんが「アウシュビッツ・ドイツなど過去を向き合う旅で」などと題してトークをおこないました。

朴 慶南(パク・キョンナム)さんは「憲法九条は日本だけでなく、アジアや世界の宝です。再び朝鮮と日本の民衆を切り裂かないで」と訴えました。

中山武敏さんは「満州に出征

し、南京虐殺に加わり、戦後は平和と人権のために活動したご自身の父親の生涯」を語りつつ、「党派、所属を超えて大きな平和の運動をつくりたい」と話しました。

田代博之弁護士は「重慶大爆撃裁判は10月22日に最終弁論がおこなわれる状態になっている。この裁判のなかでは、日本の海軍航空隊による重慶大爆撃は、1938年から45年にかけて200回にわたっておこなわれ、これらによって100万戸が焼かれ、一般民衆10万人が殺されたなどがあきらかになった。この民衆を殺すことを対象にした無差別爆撃はその後アメリカが継承して東京空襲、朝鮮戦争、ベトナム戦争の中でも行われるようになってきている。こうした無差別爆撃は人道に反するもので、それらの被害者と連帯して勝利に向けて頑張っていきたい」などと決意を語りました。

橋本左内さんは「『ナチ党が共産主義を攻撃したとき、彼は多少不安であったが、共産主義者でなかったから何もなかった』などドイツのニーメラー牧師の戦争責任反省と謝罪の言葉や『非人間的なことを心に刻もうとしない者は、また新しい非人間的な疫病にかかり易い』と述べたドイツ共和国大統領だったヴァイツゼッカーの言葉等を引用したうえで「ドイツの場合のように『70年戦争』における植民地支配と侵略戦争の犯罪が根本原因となっていることを



【写真上】朴 慶南さん



【写真上】中山武敏さん



【写真上】田代博之さん



【写真上】橋本左内さん

抑えた上で『東京・平和・祈念』の『記憶遺産』を活写する内容のものを盛り込んだ『祈念館』であることを求めるものです」と話しました。

集会第2部では、東京空襲遺族会の星野ひろし会長が、遺族会としては7月2日に東京都の生活文化局の部長と会い①東京空襲で犠牲になった人の氏名記録を継続していくこと。東京都は「個人情報保護条例」を理由にすでに判明している犠牲者氏名の非公開にしている。しかし広島、長崎、沖縄、大坂は公開され、神戸では市が土地を提供して刻銘碑の建設を始めている。名簿の公開をして欲しい。②「平和祈念館」の建設に真摯に取り組んでほしい。③東京空襲70周年の追悼事業は仏式でなく、仏教徒やキリスト者などすべての宗教者や関係者が参加できるものにして欲しい。会場には多くの空襲犠牲者が仮埋葬された場所にテントを張って規模を大きくして開催して欲しい等を要求してきた、と報告しました。

「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会世話人の石山久男さんは、来年東京大空襲70年戦後70年を迎えようとしているときに安倍政権は日本を「戦争する国」に「集団的自衛権行使容認」の閣議決定をした。



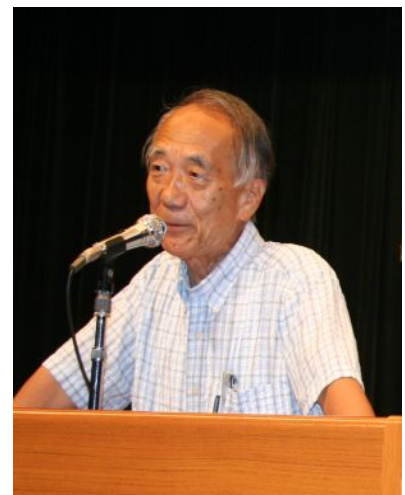
【写真上】星野ひろしさん

しかしこれに対しての国民の反対の声は大きく広がっている。このときに東京に「平和祈念館」を建設をすすめる運動を大きく発展させて、たしかに平和の日本をつくっていく突破口にしていこうと力強く訴えました。

また激励のため駆け付けた小竹ひろ子都議会議員（共産党）は、”6月の都議会の際に東京空襲で亡くなった方の名簿の公表や「平和祈念館」建設に共感して都民が提供した資料を平和団体などにも貸し出すようにとの文書質問を東京都にしたところこれまでと全く前進していない回答をしてきた。皆さんと協力して都を動かしていきたい”との趣旨の挨拶しました。

なお、東京民研・音楽部会がオープニングで合唱。

2部の冒頭、全日本年金者組合荒川支部有志が高岡岑郷氏作詞の『断じて「戦前」は迎えない



【写真上】石山久男さん



【写真上】小竹ひろ子さん

い 東京に「平和祈念館」建設を！』を朗読するなど集会を大きく盛り上げました。

参加者は120名をこえました。

（柴田桂馬 記）



【写真上】東京民研・音楽部会の皆さん



【写真上】年金者組合荒川支部有志の皆さん

東京大空襲70年、戦後70年 を迎えるにあたって 「東京都平和祈念館（仮称）」 建設の新たな署名運動にご 協力ください！

来年は東京大空襲70年、戦後70年です。当時国民学校1年生だったひとは、すでに75歳前後です。この人びとから悲惨な空襲や戦争体験を直接話を聞ける年月はそう長くはありません。

一方、安倍政権は7月1日、「集団的自衛権行使容認」の「閣議決定」をし、日本を「戦争する国」へと大きく舵をきりました。

「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会は、このような情勢を検討した結果、あらためていまこそ、内外に平和を発信する「平和祈念館」建設の署名運動を開始することを決めました。

かつて東京は、日本の政府と軍部による朝鮮半島の植民地支配、中国などへの侵略戦争推進の政治的・軍事的の拠点となってきました。あのアジア・太平洋戦争では2000万人が犠牲となりました。同時にアメリカのB29爆撃機による無差別都市爆撃で東京は焼け野原とされ10万人をこえる人々の命が奪われるなど悲惨な被害をうけました。

「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会は、こうした悲惨な戦争の実相を語り継ぎ、内外に平和を発信する拠点としての「平和祈念館（仮称）」を東京に建設すること意義を繰り返

返し主張し、東京都や都議会に要求してきました。

東京都は、いったん「平和祈念館（仮称）」建設にとりくみ、都民から多くの資料を集めてきました。

ところが、侵略戦争を肯定・美化する一部の都議会議員と石原慎太郎、猪瀬直樹都知事は、都民の期待と行為を踏みにじって、「平和祈念館（仮称）」建設を事実上「凍結」してしまいました。

そして、都民から寄せられた多くの貴重な資料を、何の理由もなく、説明もなしに倉庫にしまいこんだままにしています。

こうした東京都の行為は社会的道徳観からいっても決して許されるものではありません。

「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会は、このようなことから7月12日には“戦争する国を許さず「東京都平和祈念館（仮称）」建設をめざす7・12集会”を開催してきました。

そして8月20日、9月19日、10月8日と世話役団体会議を重ね、そのなかで、多くの著名人・団体代表の協力・参加による署名、来年秋にむけての一般の署名運動などを開始し、東京都や都議会にむけて、「平和祈念館（仮称）」建設を迫っていくことにしました。

東京都平和祈念館（仮称）」

建設をすすめる会は、これまで2回にわたって署名運動をして都議会に陳情してきました。

最初の署名の趣旨は“東京都が「平和祈念館（仮称）」建設の「凍結」を解除し、一日も早く建設するよう求めます”でした。2009年3月19日には第1次分1万3811人の署名を都議会に提出しました。

2回目の署名の趣旨は“東京都と都議会は「平和祈念館（仮称）」展示内容等についての合意を得る努力をただちに開始し、一日も早く建設するよう求めます”でした。2012年2月、1万2160人の署名を都議会に提出しましたが、2月17日の文教委員会で審議され、日本共産党と生活者ネットが賛成、あとの会派の賛成が得られず不採択となってしまいました。

これまでは、都議会の動向に係わっての署名運動でしたが、今回は、『（東京空襲の）犠牲者を追悼し、戦争の惨禍を語り継ぎ、都民一人ひとりが平和の大切さを確認する拠点として、また都民の平和への願いを世界に発信する拠点、平和のシンボルとしての「平和祈念館（仮称）」の建設を東京都に求めます』との設立の趣旨を正面に掲げての署名運動をすすめることにしました。

そして、これまで集めた署名数を大きく上回る署名を集めて都議会に提出していくことにしています。

是非とも各界の方々のご協力をお願いします。



69年目の夏の都内各地の平和展

世田谷区

世田谷公園で原爆写真展

世田谷公園原爆写真展は今年（2014年）で20回目になります。

世田谷公園には原爆の火が灯されています。また平和の祈り像が建てられ、被ばくのアオギリの木、柿の木が植えられています。平和を象徴する公園です。

来年には公園内に世田谷区が運営する「せたがや平和資料館」が新たにオープンします。

この世田谷公園の一面を借りて、毎年8月最後の日曜日に原爆写真展を行ってきました。主催は三軒茶屋地域原爆写真展実行委員会です。その中心を三軒茶屋原水協が担っています。展示内容は、ヒロシマ・ナガサキの原爆写真とともに東京大空襲、沖縄地上戦の写真も展示します。

さらに原爆と戦争などのテーマでその時世の出来事を展示します。

最近では福島原発事故、集団的自衛権行使容認などを写真や絵で分かりやすく展示しました。また原爆写真展の中で、毎年代表を送っている原水爆禁止世界大会の代表派遣者からの大会報告を行っています。

さらに、夜には原爆と戦争に関するアニメ上映会も行っています。

公園に遊びにきた多くの人が写真展を見ていきます。親子連れや若いカップルなどは

「原爆は悲惨です。原爆は二度と使ってはならない」

「若者が戦争で命を落としている。日本が戦争に行くのではと心配です」などの感想が寄せられています。



世田谷公園原爆写真展は、世田谷区と世田谷区教育委員会が後援する「せたがや文化平和月間」に2003年、第9回原爆写真展から参加しています。

（三軒茶屋原水協、桜井みのる記）

大田区

35回目をむかえた大田平和のための戦争資料展

大田の資料展は、8月15日から17日まで、多摩川線下丸子駅前の大田区民プラザで行いました。実行委員会に参加する7つの団体がそれぞれのテーマを掲げた展示をしました。

3日間で450人が参観し、大変好評でした。出展団体のすべてを紹介できませんが、いくつかを示します。「戦争と文化」の展示では、15年戦争下に文化が

どう戦時化されたのかを主に写真を使って展示しました。同じように植民地された朝鮮で、文化・教育が皇国臣民化されたのかも示しました。

日中友好協会大田支部は、日中戦争下の生活と教育のテーマとともに従軍慰安婦関連資料で、国が慰安婦を集めるためにした証拠も出しました。大田区の原爆被害者の会からは「原爆と人間展」のほか、会の活動を紹介しました。憲法問題についても「検証 自民党憲法草案」で改憲案の実態を明らかにしたほか、大田区内で活動している「九条の会」が作成したパネルを紹介しました。大田区で活動している「教科書大田区民の会」からは大田区で現在使用している育鵬社の教科書と他社を比較した展示をしました。「教科書が自分たちのものとかかなり違うことに驚いた」という感想もよせられています。16日には講演、朗読、紙芝居などの催しをしています。高校生平和ゼミからの活動報告、桂敬一氏による集団的自衛権問題にもふれた「どう見抜くかー忍び寄る戦争」で、今日の課題にもしっかり触れた講演をしていただきました。（実行委員会代表 大坪庄吾 記）



品川区**しながわ平和のための戦争展**

第31回“しながわ平和のための戦争展”は、8月14日～17日までの4日間、品川区民ギャラリーで開催、400人を超える来場者で盛会のうちに終わることができました。

展示のテーマは“戦争する国にさせないために”だが安倍内閣は7月1日、主権者の声をふみにじり、憲

法に反して「集団的自衛権の行使容認」を「閣議決定」。改めてテーマの重さを考えさせられる中での開催となりました。

展示の中心は、「憲法」―第九条は世界の宝。立憲主義、そして「特定秘密保護法」から、「集団的自衛権の行使容認」に至る経過と内容。解釈改憲を許さない地域、国民のたたかいなど。品川子どもと教育九条のは、「安保条約と米軍基地を考える」のテーマで、その内容と課題―沖縄、横田基地問題等を提起。

「集団的自衛権行使」に関してその賛否を問う“シール投票”を会場内外で行いました。

他には●侵略戦争（日本は中国、朝鮮に何をしたか）、治安維持法と国民、●戦争と子ども、教育―学童疎開70年。●原爆と原発―ビキニ事件60年。今フクシマは。●書で平和の心を―“へいわってすてきだね”。沖縄全戦没者追悼式での小学校一年生の詩（2013年）。

催しは、金子勝さん（立正大学名誉教授）が『「戦争する国

作りと集団的自衛権―「閣議決定」が狙う“戦争の自由化”』と題して講演。「集団的自衛権」は「侵略権」、「恒久平和主義」の原理の破壊、自衛のためと言って戦争を行うことを世界に宣言した（戦争の自由化）と話され、幅広い統一戦線で安倍政権の打



2014.08.17

倒を、と訴えられました。

石子順さん（漫画家協会監事）は「平和―いいにの言葉。手塚治虫氏からのメッセージ」と題して講演。学童集団疎開体験者のリレートークや実話紙芝居グループによる「東京大空襲」紙芝居の上演なども好評でした。

親子連れの見学者、展示をメモする高校生の姿もあり励まされました。

（扇谷道子 記）

江戸川区**第14回「平和のための戦争展」in江戸川**

毎年8月に開催しています「戦争展」も今年で14回目を迎えました。

安倍政権による秘密保護法の強行、武器輸出三原則の緩和、「集団的自衛権の行使容認」と「戦争できる国づくり」が急ピッチで進められる

なかで、戦争展開催の意味もますます大切になっていると考えています。

戦争展では、写真とパネルの展示（広島・長崎、沖縄、治安維持法下の戦い、関東大震災と中国人虐殺）、展示品（戦争当時のくらし、九条の会、新短歌協会、新婦人）、戦争・被爆の朗読・歌声、反戦平和のビデオ上映を行いました。

署名と折り鶴コーナーを設け、参観者が平和の願いを込めて鶴を折りました。

今回は、「憲法九条にノーベル平和賞を！」というテーマで戦争展を計画しました。

講演は、区内被爆者の会会長の奥田豊治さんに「8月9日の広島」の演題で講演をお願いしました。

予科士官学校受験のため山口から広島に入り、見聞きした当時のお話は、核兵器廃絶・戦争は絶対してはならないことだという思いを130人以上の参加者に呼び起こしたのではと感じています。

被爆者の会手作りの「サダコの4675日」等上映されたDVD、展示に例年以上に熱心に見入る人が多かったことも特徴的でした。

戦争展には、8月30・31日の両日で700人を超す参観者がありました。



家族や周りの人たちと語りあい、身近なところから平和を考え、行動していける場に少しでもなれたのではと考えています。

（第14回実行委員会委員長
丸 宗一 記）

渋谷区

渋谷原爆写真展

ビキニ被災60年！核兵器のない世界・原発ゼロを！ 第25回「渋谷原爆写真展」—平和のための戦争資料展—は、8月2日（土）～3日（日）渋谷・上原社会教育館で開かれ、のべ159人が来場しました。

今年の写真展では、ビキニ被災60年として、これまでの第五福竜丸に関する資料を補強した資料や、許すな！海外で戦争する国づくり・集団的自衛権行使容認の「閣議決定」問題の資料も新しく展示しました。

「写真展・平和のつどい」の第一日には、江東区の小学校教諭時代に「第五福竜丸の保存運動」に係わった東京原水協代表理事の青木佳子さんの講演。

二日目の第一部・被爆体験は、日野市被爆者の会・会長の片山昇さんの証言。

片山さんは、13歳のとき、広島で爆心地から1・7^{km}の段原国民学校の校舎のなかで被爆。あの日、大地を引き裂くような閃光と爆風で校舎の倒れる轟音、気がついたときには、校舎の下敷きに、何がおきたかわからず、そのうち「助けてーお母ちゃん」という叫び声が聞こえ、片山さんも手探りで、もがきながら脱出し、助かりました。

しかし、燃え広がる炎、倒壊した校舎の下敷きになって、助けを求めて泣き叫ぶ友だちを助け出すことができず、その声を

背に逃げるほかなかったというのです。

爆心地から900メートルの新聞社に勤めていたお父さんは、やっと助かったものの、原爆症で苦しみ翌年2月、白血病で亡くなりました。

片山さんは、被爆40年目に被爆者で親友の行動に誘発され、反核運動に参加して被爆体験を語るようになったことなど、そして、核兵器は絶対悪で、人間と核兵器は共存出来ないと強く訴えられました。

「被曝された方の“生”の体験を聞き、肉体的な傷だけでなく、心に大きな傷を背負われていることを知り、（核兵器の使用）は、繰り返させてはならない、と思いました」（41歳女性）第二部は、経済人として脱原発を宣言、発言しつづけ、異色の金融界トップとして注目されている、城南信用金庫の吉原毅理事長が「原発に頼らない安心できる社会へ」と題して記念講演しました。

吉原さんは、原発がアメリカとの関係の中で、歴代政府が平和利用の名のもと、ユメの燃料ともてはやし、導入してきた歴史的経過。また、安全神話のもと、莫大なお金を地方に出す仕組みをつくり、54基もの原発を全国各地につくってきたこと。それが福島原発の事故で一変していること、しかし「原発をとめると日本経済は大変なことになる」と政府などが言い、再稼働を狙っているが原発ゼロでも自然エネルギーで日本経済は再生すると、熱く語りました。

（渋谷原爆写真展実行委員会
代表委員 三橋勝郎 記）

北区

平和のための北区の戦争展

今年は第20回でした。実行委員会の皆様のご協力で成功しました。期間は8月23日（土）、24日（日）の2日間、会場は北とびあ地下展示場をメインに、東京土建会館をサブ会場にして行いました。参加者は延べ650人でした。

メインテーマは『子供たちに平和な日本を残すために』、サブテーマは「戦争する国づくりNO!」でした。

今年の特徴は、実行委員会を半年前から7回開き、特に若い世代の参加を呼びかけたことです。その結果、いろいろ新しいアイデアが出されて、会場設計も改善して明るくなったと好評でした。

また映画は、第2会場の東京土建で映画「はだしのゲン」を2回、アニメ「火垂るの墓」1回上映しました。会場は満席になりました。

メイン会場の展示も、写真やイラストをうまく活用して、見やすく、分かりやすいものに工夫し、ゆっくり足を止めて見てもらえるよう努力しました。

また、オスプレイの模型と沖縄の嘉手納基地のジオラマも展示しました。

「原爆と人間展」や、区内の9条の会の活動紹介、「改憲」問題では、動き出した「有事立法」や秘密保護法、そして集団的自衛権の発動の狙いと今後の課題などがまとめられていました。

（北区平和委員会ミニニュース
No.1、2014. 9. 20より）

足立区

第27回足立平和のための戦争展は「731部隊展」を主にして開催

去る8月22日～24日、足立区梅島のLソフィアで、第27回足立平和展を開催しました。

今回は展示会場の1階画廊では、15年に及ぶ中国侵略戦争で起こった極秘の731部隊の非人間的な実態をあばく展示がメインでした。

世界に例のない人体実験(死に至らしめる)を行い、国際法違反の細菌兵器・毒ガス実験を行っていたことを知ることができ、日本がこのような非人道的な戦争について考えさせるものでした。

同会場では合わせて、現代の戦争の危険性を訴える集団的自衛権行使と秘密保護法の問題を展示しました。

記念講演も、大谷猛夫氏(法政大学講師)の「中国侵略戦争の実態から、悲惨な戦争を再び繰り返してはならない」と、鎌田正紹氏(北千住法律事務所弁護士)の「集団的自衛権の行使は戦争への道」の2本建てでした。

3階の展示会場(壁面)では、市民公募参加の絵手紙・絵画・俳句・川柳などの作品、平和美術・文芸コーナーなども設けました。出品協力者も増え、定着してきています。

4階ホールの平和コンサートでは、足立ピーフラワー合唱団による、東日本大震災被害からの復興の願いをこめた創作曲などが演奏されました。

3日間の参加者は延べ300人ほどでした。

来年は戦後70年の節目なの

で、足立平和展の企画も充実させねばということで、一つはこれまであまり重点をおいてこなかった小・中学生にも分かる展示、もう一つは久しぶりに足立地域の戦時資料の展示を工夫しようということになっています。

そしてこの秋から冬にかけて、足立平和ゼミナールの定期的な学習会をもち、戦争と平和の問題を訴え、平和展の実行委員を広げていきたいと考えています。

(狐塚健一 記)

立川市

「平和をめざす戦争展 in 立川」

2003年、第1回の「戦争展」を開催し、今年、第12回をむかえました。立川の戦争展では、過去の戦争の事実を伝えるだけでなく、日本をふたたび戦争する国にしないため、毎年、実行委員会で議論して「テーマ」を掲げ、資料展示と「記念講演」を行ってきました。

今年のテーマは「あなたは日本を戦争する国にしたいですか」です。

安倍自公内閣が、昨年の秘密保護法・採決強行を皮切りに、戦争する国づくりにひたすら突き進む重大情勢の下、9月11日～13日、立川市民会館(RISURUホール)の壁面50メートルにおよぶ展示室で多角的に展示を行いました。サブテーマは(悲惨な戦争の歴史を繰り返さないために)(平和憲法を守ろう)(横田基地は今?)(戦争の惨禍、原爆、沖縄戦、大空襲)(世界に広がる平和の流れ、現

在の紛争)(STOP安倍教育「再生」改革)、日本の侵略戦争、原発問題、立川の戦跡、砂川闘争・・・全部は書ききれませんが、新たに展示を行った青年の原水爆禁止世界大会参加や災害ボランティアなど15項目です。

青井未帆(学習院大教授)氏の記念講演「集団的自衛権を憲法の立場から考える」には、150名を超える方が参加しました。講師はまとめて(私たちにできること)・・・「おかしい」といい続けようといいかけてました。アジア太平洋戦争の敗戦のあと・・・多くの方が、今度の戦争でだまされていたという。みんながみな口を揃えてだまされていたという。だましたのだと



いった人間はまだ一人もしらない。「だまされたといえば、いっさいの責任から開放され、無条件で正義派になれるように勘違いしている人は、もう一度よく顔をあらいなおさなければならぬ」終戦直後の伊丹万作氏の弁に触れ、講演を締めくくりました。

(実行委員会事務局 龍田康宏)





第19回こがねい平和展

（若木稜江 記）

第19回こがねい平和展は、7月12日（土）、13日（日）、東小金井のマロンホールで開催しました。

安倍内閣の急速な反動化が、戦前の危険な情勢に似ていることから、展示は日本の侵略戦争に至る実態や東京大空襲の写真、集団的自衛権の閣議決定を伝えた7月2日の七大新聞の朝刊の比較など、事実を目で見て知ることに重点をおきました。

講演は山田朗教授による日本の軍備増強の実態を明らかにしながら「戦争する国づくり」がすすめられていることを、わかりやすく学びました。

植木弁護士は、集団的自衛権のイカサマを語るとともに、これを阻止するためには、いま私たちにやれることを惜しみなくやることだと強く語られました。

その他「戦争体験を語るつどい」では5人の方が10分づつ身近な体験を語り、そのあと会場から4人が話され、戦争はどんな人にも深い傷を残すものだと知りました。

小金井原水協の大鳥理事長からは、手づくりのスライドにあわせて2015年に行われる核兵器禁止の国連の再検討会議にむけて、日本から800万～1000万人の署名を来年3月までに集める訴えもされました。

今年は会場が東に偏って参加者は140人余りと多くはありませんでしたが、目でみて耳で聞いて、心に力を与えてくれる催しだったという参加者の声に勇気づえられました。

あきる野市

今年の「新・原爆と人間展」

私どもあきる野原水協は、毎年8月の敗戦の日である15日の前後の5日間「新・原爆と人間展」を市役所のロビーで開催しています。そして、広島市民が描いた原爆の絵も同時に30点ばかり展示するようにしています。原爆の絵は広島平和記念資料館からお借りするのですが、毎年違う絵をお借りするようにしています。

今年も、8月11日から15日まで開催しました。会場には、机、椅子などを置き、折り鶴を

折ったり、DVDを觀賞したり、図書を閲覧したり出来るようにしています。いろいろ工夫はしているのですが、以前は500人以上の市民が来場したのですが、最近は減少傾向で、今年の場合289人ととどまりました。それだけに、なお続けることが必要だと痛感しています。

毎回、感想文をお願いしていますが、いつもは10人程度であったものが、今年の場合、18人の方が感想を寄せられま

した。

その感想文の一部を紹介しませう。

◆70歳一男性

今朝、東京新聞の記事で、長崎で被爆した人が「福島原発爆発事故を見て自分が受けた差別がまたくりかえされる思い、それまで誰にも言わないでかくしてきたけれど、もう黙ってはいけなないと、多くの人に知らせることにした。」という記事が載っていました。真実は多くの人に知ってもらうことが大事なことだと思つづく思つた次第です。

◆70歳一男性

ここに展示されている写真や絵は、私どもが決して忘れてはならない出来事の記録であり、証拠でもあります。二度と繰り返してはならない出来事が二度と起こらないために、こうした展示を続けられている皆さんに敬意を表します。毎年、ありが



とうございます！ これらを見て、私どもも何か出来ることをしなければと思うようになりました。

◆60歳代 女性

今年の広島、長崎市長の平和メッセージには、心打たれました。安倍首相は、どんな気持ちで聞いていたのでしょうか。一日も早い核兵器の廃絶を願い、毎年の原爆展を見せていただいています。

（あきる野原水協 瀬沼辰正 記）



東村山市

2014年「核兵器廃絶と平和展」に約3000名が来場

2014年「核兵器廃絶と平和展」は、東村山市と「核兵器廃絶と平和展実行委員会」の共催で、8月18日から26日まで、東村山市役所いきいきプラザ1階ロビーで開催され、7日間で2800名の来場者がありました。会場は親子連れが多く訪れ、親が子供に核兵器の恐ろ

しさ平和の大切さを伝えている姿が特徴的でした。ヒロシマ・ナガサキの原爆写真展、市内在住の画家・狩野光男さんの東京大空襲連作、平和の絵手紙などを展示しました。広島

の資料館からお借りした被爆現物資料、熱線で溶けた茶碗や焼けた学徒の衣服見た来場者から「二度と核兵器は使わせてはならないと思いました」など多くの感想が寄せられました。18日の「サロンコンサート」に50名、18日には中央公民館大ホールで東友会の東條明子さんの被爆体験をお聞きする会と平和音楽会が開かれ150名の来場者があり「被爆者の証言を聞いて、あらため核兵器をなくさなければならぬと思った」などの感想が寄せられました。「核兵器廃絶と平和展」開催のため、5月か

ら毎月1~2回市役所で内容充実のため実行委員会が開催されます。宣伝は、市報掲載、ポスターとリーフレットを小中学校や公民館、図書館などに配布・掲示されます。来年は、被爆70周年、東村山市が「核兵器廃絶平和都市宣言」をしてから20周年の年です。節目の年に相応しい非核・平和事業を実施するため、市長と話し合いをしています。

(核兵器廃絶と平和展実行委員長 儀同政一 記)

東大和市の「平和月間」事業

東大和市は毎年8月を「平和月間」とし、さまざまな平和の事業をおこなっています。

下の表は今年の「平和月間」事業の一覧表です。

東大和市で九条の会の活動をされている鳥谷靖さんから寄せられたものです。

事業名	開催日・時間	場所	内容	問合せ
平和祈念・戦争資料展	8月1日(金)~8月29日(金) 午前8時30分~午後5時 (土曜日は正午まで、日曜日は除く)	市役所1階 市民ロビー	・広島・長崎被爆写真パネル等の展示 ・広島平和記念公園内「原爆の子の像」へ送る折鶴の制作	企画課・内線1425
市政情報コーナー展示「平和月間」	8月1日(金)~8月29日(金) 午前8時30分~午後5時 (土曜日、日曜日は除く)	市役所3階 市政情報コーナー	・平和月間の平和関連事業の紹介(平和市民のつどい、平和文集等)	文書課・内線1321
非核・平和図書展	8月1日(金)~8月25日(月) (各図書館の休館日は除く)	中央図書館 桜が丘図書館 清原図書館	・非核・平和に関連する資料の展示・貸出 【テーマ】「戦後の記録」	中央図書館 ☎564-2454 桜が丘図書館 ☎567-2231 清原図書館 ☎564-2944
戦争と平和について考える見学会	8月6日(水) 午前9時~午後4時(予定)	・埼玉ピースミュージアム ・地球観測センター	バス見学会 定員:40人 申込:7月2日(水)~19日(土) 対象:小学生(3年生以下は保護者同伴)	中央公民館 ☎564-2451
ロビー展示「多摩の戦跡写真パネル展」	8月9日(土)~8月31日(日) 午前9時~午後5時 (休館日は除く)	郷土博物館	・多摩地域に残る戦災遺跡等の写真パネルの展示	郷土博物館 ☎567-4800
第10回平和市民のつどい	8月8日(金) 午後5時20分~午後7時 (旧日立航空機機変電所の特別公開は午後2時から)	都立東大和南公園内 平和広場 (旧日立航空機機変電所周辺)	・旧日立航空機機変電所の特別公開及び刊行物の販売 ・慰霊塔及び追悼式のパネル展示 ・黙とう・開会式 ・平和コンサート(出演:国立音楽大学学生、東大和少年少女合唱団) ・戦争体験記の朗読 ・広島平和記念公園内「原爆の子の像」へ送る折鶴の制作 ・「核兵器禁止条約」の早期実現を目指した署名コーナー設置 ・平和文集及び日本国憲法の配布	企画課・内線1425



小平市

2014「平和のための戦争展・小平」

戦争展を開催する目的はただ一つ「戦争を二度と起こさない」ということです。そのため過去の戦争の歴史を振り返り、現在の戦争の芽を摘み取り、未来の平和な世界を展望しようと努めてきました。

今年の戦争展で特筆すべきこ

とを二・三書き残してみます。

まず第一は、今年も小平市にある白梅学園大学の平賀明彦先生の指導のもと、4日間に80人の学生さんが来場し、熱心に展示を見て、実行委員の説明に耳を

傾けて下さったことです。

第二は、7月末にNHKの首都圏放送センターの記者が取材にこられ、8月3日（日）の午前6時すぎ、テレビのニュース番組で放映されたことです。

“戦争を二度と起こさない”という目的で、20周年地道に継続してきた活動にNHKが注目し、広報して下さいたことに感謝します。

第三は、1996年から18年間、JR三鷹駅前で、毎月第

三水曜日の夕方、「沖縄タイムス」の記事を抜粋したビラを配布している市民グループと連帯し、沖縄の基地問題の展示を行ったことです。特別企画として上映した「標的の村」とあわせ、私たちの生活は沖縄の人たちの犠牲の上に成り立っていることを改めて考えさせられました。

最後にもう一つ、戦争のない平和な時間がいかに人間を幸せにするか、そのことを実感したのが文化行事で行った、西村優子さんのヴァイオリン演奏と合唱団どれみの合唱でした。「標的の村」の基地反対運動のシーンの中でも、地元の人が沖縄の歌をうたい、踊る姿が写されていました。それは基地のない平和な村の営みを象徴するものであり、平和がいかに大切か、心の底まで響いてくる、これこそ万人が認め、求める姿でした。
（実行委員会代表 西村暢夫 記）

メディアが注目！ 「東京都平和祈念館（仮称）」建設「凍結」問題

2015年の戦後70年・東京大空襲70年を前に、安倍内閣の歴史修正主義の動きとも重なって、メディアの歴史と向き合う企画が今年から始まっています。その中で「東京都平和祈念館（仮称）」建設問題も取り上げられています。

「東京新聞」が3月17日付け朝刊のトップで「都祈念館凍結15年—空襲資料 埋もれる5000点」の大見出しで報道。東京都が都民から募って集めた空襲資料5040点がたなざらしとなっているこ

とをとらえ、都平和祈念館（仮称）の建設計画が凍結されたことの状態を伝えています。さらに、「母の遺品はどこかで展示されていると思っていたので、がっかり・・・」という母の遺品を東京都に寄贈した白根嘉代子さん（87）＝渋谷区＝の記事も掲載され、波紋を呼びました。

「朝日新聞」が8月13日付け夕刊のトップで「戦争資料5,040点さまよう一都の平和祈念館 建設構想が頓挫」と4段抜きの大見出しで、白根嘉代子さんの「私が生きていく間に、何とかならないかと」の願いを伝えています。「東京都平和祈念館」建設への構想をめぐる経緯も伝え、滋賀県が12年に平和祈念館を新設し、愛知県と名古屋市

が来年8月に戦争資料館をオープンすることも知らせています。

「東京民報」が8月10日付けの一面コラム「一分（いちぶん）」で、舛添知事の7月31日の記者会見に触れて、「平和祈念館」建設を戦後70年の節目に「政治の決断」でと促しています。

また、7月12日に豊島区民センターで開催された「東京都平和祈念館（仮称）」建設を求める集会の内容を、翌13日の「東京新聞」朝刊、「しんぶん赤旗」などが、カラー写真入りで報道しました。このようなメディアでの報道が注目されています。

（高岡岑郷）

全国空襲被害者連絡協議会が 結成4周年記念集会開催

全国空襲連は、終戦69周年の8月15日、東京・江東区のカメリアホールで“この国を、東京を、ふたたび火の海にさせない！つどいを開催しました。このつどいは、大坂・沖縄・名古屋で空襲被害者が闘っている訴訟の勝利と、来年の空襲70年めざして全国空襲連がこれまで取り組んできた「空襲被害者にも援護法を」の運動を大きく発展させていく決起のつどいとして開催したものです。

このつどいの第1部では、鈴木賢士（フォトジャーナリスト）さん制作のDVD「生きて伝える」の上映、21歳のときに東京空襲を体験した清岡美知子さん、九州で空襲にあい爆弾の破片で左足を失った安野輝子さんの証言から始まりました。

開会挨拶にたった全国空襲連運営委員長の星野弘さんは「東京空襲では10万人余りの方が亡くなっていたが、20年前に東京都はただの3393人の名前しか把握していなかった。遺族会などの運動の中で現在は8万1千余りの方の氏名がわかってきている。この氏名記録をさらにすすめていくことが必要。

沖縄・広島・長崎・大阪では資料館がつくられてきているが東京にはいまだ建設されていない。軍人・軍属にはこれまでに55兆円もの補償がされているのに空襲被害者には何の補償もされてきていない。このことについて最高裁は、原告の言い分を門前払いにした。こうした国の態度は不条理極まりないと厳しく批判しつつ、この不条理をただす運動を今日を新たなスタートにしてつよめていこうと訴えました。

つどいはこの後、全国空襲連共同代表の中山武敏さんのよびかけ、新社会党、日本共産党、緑の党、社民党、結の党の代表など政党代表、花井増實日本弁護士連合会副会長、家島昌志東京都原爆被害者団体協議会事務局長、高岡岑郷「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会世話人、早乙女勝元東京大空襲・戦災資料センター館長の連帯の挨拶がおこなわれました。

第2部では、「合唱団 この灯」による「いのちを生きる」「輝く未来を」が歌われ、元朝日新聞論説委員、専修大学教員の藤森研さんの「平和をどう伝えるか」と題する記念講演、「アピール」提案・採択とつづき、4時過ぎ散会しました。参加者は約350人でした。

（柴田桂馬 記）

東京空襲「語り部」 などの活動交流会

7月25日（金）午後、すみだ女性センター会議室で東京空襲遺族会主催の“東京空襲「語り部」などの活動交流会”が開催されました。

この会は、最高裁での不当判決後の「語り部」活動など遺族会のさまざまな活動について交流し、学び、励ましあうことを目的に開催されました。

冒頭、フォートジャーナリストの鈴木賢士さん作成したDVD「生きて、伝

える」を上映、そのあと鈴木さんは「戦争への流れをつよめていく動きが出てきている時だけに、そして国民の82%が戦後生まれの人になっているときだけに、孫子の時代に戦争の悲惨さを伝えていく『語り部』となっていく意義は大事になっている」と語られました。

その上で「100人の『語り部』プロジェクトを実現していくことを提起したい」などとも述べられました。

参加者交流の中では、「学童疎開をしていたので、どう伝えていったらよいか考えた。子どもたちにゼラチンを掲げてこんな色に真っ赤に焼けていたと話をした」「学校にいたとき東京空襲の展示などみて、ピースソールズに参加するようになった」「一番言いたいのはせめて慰霊碑を立てて欲しい」「主人が亡くなってから家を改造して老人が集まって交流できる店をつかった」「孫が5歳になったとき、自分が5歳のときに空襲にあったことを思い起こして、何か伝えていくのにどうしたらよいかと考え紙芝居をつかった」「父親は部下が馬を死なせたために死に追いやられた。死亡場所は中尉の部屋とされただけ。いまそういう時代になろうとしている」などなど交流がすすめられました。

（柴田桂馬 記）



今こそ戦争遺跡を 平和のための文化財に

渡辺 賢二
現地実行委員会事務局長

第18回戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川県川崎大会が8月16日、17日に明治大学生田キャンパスで開催されました。今年の大会は登戸研究所の保存の会と日吉台地下壕保存の会が中心となり、明治大学平和教育登戸研究所資料館の共催でおこなわれました。この大会には地元の神奈川県・神奈川県教育委員会・川崎市・川崎市教育委員会が後援しマスコミ各社の後援も受けておこなわれました。

16日の全体会の講演は「アジアの平和と日中関係のこれから」と題して前中国大使丹羽宇一郎氏がおこないました。この中で丹羽氏は現代社会が「知的衰退」に陥っていることを指摘し、日本も中国もその関係を理性的に構築することこそアジアの平和にとって必要があることを強調されました。

つづいて十菱駿武戦跡全国ネット共同代表から「戦争遺跡の現状と課題2014」と題する基調報告がおこなわれました。戦後69年過ぎて数多く遺されていた戦争遺跡が危機にある現状や現在

の政治状況の中で軍事博物館の台頭や戦争肯定の教科書があらわれている問題など「戦争遺跡を平和のための文化財」にする取り組みは極めて重要であることが指摘された。そのうえで①戦争の記憶と戦争遺跡保存の目的を明確にすること。②近代史・戦争の記憶を現代につなぐ遺産として、現代の文化観光・平和学習とまちづくりへ活かすことができる。「ダークツーリズム」としての活用。日本と中国・韓国などの外国研究者・団体との連携。③文化財指定・登録の推進。④戦争遺跡調査研究、保存、普及の推進などの課題が示された。

地域報告としては登戸研究所保存の会から明治大学平和教育登戸研究所資料館ができてから地域の文化財として活用が進んでいること。日吉台地下壕保存の会からは一部破壊の危機を運動によって最小限に食い止め、地域の文化財として保存する動きが強まっていることなどが出された。この全体会には今までの最高の450名（三日間で550名）



が参加し、大変充実した会となった。

翌17日の分科会は「保存運動の現状と課題」「調査の方法と整備技術」「平和博物館と次世代への継承」という三つにわけて各8本のレポートを中心に論議され全国各地の戦争遺跡の現状や課題がだされた。その中で、静岡県島田市の海軍の電波兵器基地が発掘されたが破壊の危機にあることが報告され国や県などに保存を求める決議が出された。

来年は戦後70年になる「戦争遺跡を平和のための文化財に」という課題はとりわけ重要である。

カンパのご協力へのご報告とお礼

「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会は、年間の財政規模が小さいこともあり、緊急で大事な運動をすすめる場合には、これまでも皆さまにカンパのご協力をお願いしてきました。今年度（13年11月1日～14年10月31日）は、1月の東京都知事選挙にあたって、都知事候補へのアンケートを行い、その結果を皆さまにお知らせする活動、そして7月12日に開催した”戦争する

国を許さず「東京都平和祈念館（仮称）」建設めざす7・12集会”を成功させるためのカンパのお願いをしてきました。

これらのカンパについては、下記の通りご協力をいただきました。誠にありがとうございました。結果をご報告し、お礼とさせていただきます。

◆都知事候補へのアンケート活動カンパ
6団体・108人 251135円

◆7・12集会カンパ
11団体・142人 359000円
会場カンパ 68632円

平和資料館めぐり⑫



「沖縄戦」、引き続く米軍全面占領下、つちかわれた「沖縄の心」を原点にした沖縄県平和祈念資料館

仲宗根 将二
(宮古郷土史研究会顧問)

沖縄県平和祈念資料館の設立理念は、「沖縄戦の歴史的教訓を正しく次代に伝え、平和を求める『沖縄の心』を発信し、世界の恒久平和に寄与する」ところにあります。

1945年3月～6月、90日におよぶ「沖縄戦」は、国内における唯一一般県民を巻き込んだ地上戦でした。

鉄の暴風は島々の山容を変え、文化遺産のほとんどを破壊し、20数万人の尊い命を奪うアジア・太平洋戦争で最大規模の戦闘でした。正規の軍人よりも一般県民の戦死者がはるかに多いのが特徴です。10数万人をこえます。

砲弾に倒れるもの、追いつめられて自ら命を絶つもの、飢えとマラリアに倒れるもの、

敗走する自国の軍隊の犠牲にされたもの、沖縄県民は想像を絶する極限状況の中で、戦争の不



条理と残酷さを身をもって体験しました。この戦争体験こそ戦後27年も米軍の全面占領下の重圧に抗しつつ、つちかってきた「沖縄の心」の原点です。

「沖縄の心」とは、「人間の尊厳を何よりも重くみて、戦争につながる一切の行為を否定し、平和を求め、人間性の発露である文化をこよなく愛する心」で

あり、戦争の犠牲になった多くの霊を弔い、沖縄戦の歴史的教訓を正しく次世代に、全世界の人びとに伝え、恒久平和の樹立に寄与する、県民個々の戦争体験を結集して、設立する、1975年制定(2000年一部修正)の「沖縄県平和祈念資料館設立理念」はおよそこのようになっています。

1972年、本土復帰にともなう県援護課を中心に構想され、1975年6月11日、鉄筋コンクリート2階建て(延べ床面積1003平方メートル)で開館です。

25年を経て、2000年4月1日、現在の資料館に衣替えしました。地下1階、地上2階

のRC造り、敷地面積約1万2800平方メートル、延べ床面積1万179平方メートル、総事業費72億9100万円、6年の歳月を要しています。

職員は、館長のほか総勢3人、学芸員10人、他に平和祈念財団3人、八重山平和祈念館4人。

常設展は、5つの「歴史を体験するゾーン」と「未来を展望

するゾーン」で構成されています。

「歴史」一は、1、沖縄戦への道、2、住民の見た沖縄戦一鉄の暴風、3、住民の見た沖縄戦一地獄の戦場、4、住民の見た沖縄戦一証言、5、太平洋の要石。

「未来」一は、ぬうちどう宝・世界の子もたち、いま、世界で何が…、わらび一（庭）、など。

参観者は新館になって15年目の2014年3月現在、56万74071人。県外46都道府県からも平和学習のため来館しており、2013年度は、25万4651人、このうち関東6都県が46%を占め、11万7175人です。

なお、隣接する「平和の礎」には、2014年現在、沖縄県民14万9329、県外7万7380、外国1万4573人、

総計24万1281人刻銘されています。

【お問い合わせ先】

沖縄県平和祈念資料館

〒901-0333

沖縄県糸満市字摩文仁614番地の1

☎(098)997-3844

Fax(098)997-3947

【見学案内】

◆開館時間 午前9時～

午後5時

（但し、常設展示室への入室は午後4時30分まで）

◆休館日 毎週月曜日（月曜日が休日の場合は開館）及び年末年始の12月29日から1月3日までです。

◆観覧料 大人：300円、

小人：150円

（団体＝20人以上 1人につき大人240円、小人100円）

【交通案内】

◆バス利用の場合

①那覇（バスターミナル）→

糸満（バスターミナル）線

*バス番号：32番、89番、33番、46番

*料金：片道500円

*便数：20分に1便程度

②乗り継ぎ/糸満（バスターミナル）→玉泉洞線（平和祈念堂入口下車）

*バス番号：82番

*料金：片道400円

*1時間に1便程度

◆タクシー利用の場合

那覇→糸満摩文仁（平和祈念公園）

*距離：約2km

*料金：片道3000円～

3500円

北区神谷中町町会が 40回目の空襲被害者 慰霊祭を開催

7月5日（土）午前11時から、北区の神谷公園で神谷二丁目中町会主催の40回目の空襲犠牲者慰霊祭が行われました。

北区はかつての戦争末期の1945年（昭和20年）の2月19日、2月25日、3月4日、3月10日、4月12日、4月13日から14日、5月25日、8月10日と相次いで米軍機の空襲をうけ、多くの死者を出し、家が焼かれるなどの被害がでました。

これらの空襲で命を奪われた一般住民300数十人の遺体が、現在の神谷公園に仮埋葬されました。

これらの遺体は1951年（昭和26年）に他に改葬されましたが、ある年に町内の方々がいろいろな原因で相次いで亡くなったことから、これは空襲犠牲者が成仏できないことがかかわっているのではないかと、この住民の



不安がひろがり、鎮魂の思いから、神谷2丁目中町会と神谷中央通り親和会が協力して1955年（昭和50年）7月10日、神谷公園に「大東亜戦争犠牲者慰霊記念碑」を建立、その後毎年7月初めの土曜日に慰霊祭を行うようになったというものです。

慰霊碑は神谷公園の一角の狭い路地に建てられています。この日は雨模様でしたが、町会関係者、区議会議員など数十人が参加し、ねんごろな法要が行われました。

（柴田桂馬 記）

「東京都平和祈念館(仮称)建設をすすめる会」14周年のつどい

「戦争はもうゴメン!」東京に「平和祈念館」を!

とき 12月4日(木)開会6時30分

ところ 豊島区民センター

5階音楽室

豊島公会堂=

みらい座いけぶくろの隣り

池袋駅東口より徒歩約8分

◇オープニング:合唱 合唱団この灯

◇第1部 講演

「戦後70年を私たちはどう迎えるかー再び戦争する国にしないためにー」

山田 朗さん

◇第2部 平和祈念館建設をめざして

「東京都平和祈念館(仮称)建設をすすめる会総会

資料代 800円

(大学生500円、高校生以下無料)

●どなたでも参加できます



山田 朗さん

明治大学教授
平和教育登戸研究所資料館長
歴史教育者協議会委員長

東京は、かつて日本の政府と軍部が
すめた朝鮮への植民地支配と戦争の
はじめられた太平洋戦争の
推進点となってきた。無差別爆撃が
百回以上アメリカによる命を奪われ
焼け出され、10万人以上が命を奪
まされた。1945年(昭和20年)3月
10日の町域への大空襲では、3月
20日の大空襲で10万人が焼けた
さ、10万人の命が奪われるという被
害が、10万人の命が奪われるという
ものが、10万人の命が奪われるとい
2015年5月は東京大空襲70年です。

再び戦争の惨禍を繰り返さないため
にも、都民が平和を信じていくため
に、内外に平和祈念館(仮称)の建設は急
ぎ、都民が平和を信じていくため
に、内外に平和祈念館(仮称)の建設は急
がなければなりません。
が、本土で唯一の民を巻き込んで地上戦
が行われた沖繩にも、東京にも被害を
襲った長崎にも、川崎にも、近づく
果ては、長崎にも、川崎にも、近づく
さ、東京大空襲70周年にむけて東京にも
「平和祈念館(仮称)建設をの運動
を大きく発展させていきたいと思います。



主催: 「東京都平和祈念館(仮称)」建設をすすめる会
お問合せ先: FAX 03-5927-1487 (東京平和委員会)
メール: keima@poem.ocn.ne.jp